

福祉文化通信

～well-beingへの道～

2013.7.1
vol. 71

●発行所／広報委員会
稲田泰紀 関矢秀幸 馬場 清
●制作：山河
●印刷：飛来社

日本福祉文化学会事務局 〒165-0026 東京都中野区新井2-12-10 芸術教育研究所内 Tel/Fax: 03-5942-8510 E-mail: fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp

第24回日本福祉文化学会

全国大会が東京で 開催されます。

東京大会へのお誘い

大会実行委員長 島田治子

第24回全国大会東京大会のテーマは「暮らしの中の福祉文化を問い直す」です。

毎日の生活は些細なことの繰り返しです。ほど意識されることはなく、重要だとも思わずに私たちは過ごしています。しかし今回の東日本大震災、そして新潟県中越地震、阪神・淡路大震災のような大災害で暮らしを根こそぎ奪われた時、初めて「暮らし」と真正面から向き合い、考えることになりました。

単調な繰り返しに思われた暮らしが、どんなに価値があったか。今日の次は明日と続いていくことがどれほど貴重なことなのか。時々、煩わしく思えた家族や地域がどれほどかけがえのないものだったか。

こうしたことを、暮らしが奪われてからはなく、今、考えたいと思います。「豊かな暮らし」とは何なのかを考える時、大きな4つの柱が考えられるのではないのでしょうか。それは①自分、②家庭・家族、③仕事・学業、④地域コミュニティです。

この4本柱は人によって、立場によって、環境によって変わってくるのかもしれませんが

ん。今回の大会ではできるだけ、多種多様な方々に登壇していただくことにしました。福島県飯館村の菅野村長、音楽で被災地支援をするオペラ歌手・村山岳さん、衣生活から暮らしを考える渡辺聡子さん、知的障がいを持って働く当事者の方々、施設における職員の質をテーマに議論する実践者と研究者、障がいの自立生活体験劇を全身で表現する「ライフステーション」ワンステップかたつむりのメンバーと仲間たち、新潟水俣病の地の暮らしを語る旗野秀人さん、兵庫県丹波市に移住して町の再生に奮闘する能口秀一さんなどなど。

またオプショナルツアーでは「江戸庶民の暮らしと信仰のルーツをめぐる」と題し、歴史の中から暮らしを考えられるように企画しました。お時間の許す方は「江戸」を味わってみてください。

これらの中には、きつと、心にストンと落ちる話があると信じています。

どうぞ、皆さま、お誘い合わせのうえ、ふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

申し上げます。

第24回日本福祉文化学会全国大会

【期日】1日目 2013年9月28日(土)

13:30～18:15

2日目 2013年9月29日(日)

10:00～16:30

【場所】立教大学池袋キャンパス(東京都豊島区)

1日目 9月28日(土)

10:00 オプショナルツアー

13:00 受付

13:45 開会式

13:45 基調報告「暮らしの中の福祉文化を問い直す」

14:15 《報告者》馬場清(日本福祉文化学会理事)

14:15 特別講演「『までいライフ』で求めた豊かな暮らしの今を語る」

15:15 《講演者》菅野典雄(福島県飯館村村長)

15:15 特別公演「〜共に被災地復興への願いを込めて」

16:15 《演奏者》村山岳(オペラ歌手/バス・バリトン歌手)

18:15 交流分科会 5つの分科会から

18:30 移動

18:30 懇親会

2日目 9月29日(日)

8:30 総会

10:00 研究発表・委員会企画

12:00 昼食

13:00 体験劇「はるなが池袋にやってきた」

14:15 《出演者》ライフステーション ワンステップかたつむり

14:15 パネルディスカッション「暮らしとしての福祉文化を問い直す」

《パネラー》旗野秀人(新潟水俣病安田患者の会事務局)・

能口秀一(ふるさと丹波市定住促進会議委員長)・河東田

博(日本福祉文化学会会長)

《コーディネーター》島田治子(日本福祉文化学会副会長)

16:15 閉会式

※東京大会の詳細については、別紙「東京大会パンフレット」をご覧ください、できるだけ早めにお申し込みください。

日本福祉文化学会 ブロック・委員会

活動 報告

北陸ブロック

石井ハークマン麻子

北陸ブロック現場セミナー 開催のお知らせ

北陸ブロックでは11月2日（土）、3日（日）の両日、福井県鯖江市を会場に、「障がいのある人の生きがいを支えるコミュニティ」地産地消の食事作りの実践から」のテーマを掲げ、現場セミナーを開催します。

1日目には鯖江市のNPO法人が運営するコミュニティ・カフェ「こころcafe & lunch」の活動報告と世界で初めて知的障がいのある人たちと職員が開いたスウェーデンのレストランの事例を取り上げ、シンポジウムを行います。さまざまな障がいのある人たちが生きがいを持てる仕事を、どのように地域は本人たちと一緒に作り出しているのか。その方策や知恵の経験交流をしたいと思っております。また、障がいのある人たちにとって「食事作り」がもつ意味をあらためて問い直してみたいと思います。

姿で仕事に取り組んでいます。ランチメニューには地元で収穫された新鮮な野菜が使われ、福井の名物である手打ちそばも定番の一つになっています。夜には「こころ」で実際に夕食を取りながらの情報交換会を計画中です。2日目にはまず、同じ法人が経営するファームでの野菜作りを見学します。



日替わりランチメニュー

ここからはオプショナルですが、次に「越前和紙の里」を訪問し福井の伝統技術に触れていただきます。その後、河和田うるしの里」に足を伸ばして昼食をとり解散というプログラムになっています。多くの会員および非会員の方の参加をお待ちしています。

中部東海ブロック

平田 厚

長寿者がほっとするご近所福祉をいかに若者がつなぐか
確かな福祉文化実践活動としての手応えを期待
静岡福祉文化を考える会活動を柱に中部東海ブロック会員呼びかけ

持ちで会場を後にする皆さんを拝見して「伝統文化の出前は大切にしていきたい」そう思った。

3月16～23日の8日間、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市と、ヨーロッパでつながろう」をテーマに「パッチワークキルト展」を開催した。会員の長尾玲子さんが一年前からボランティアで仮設住宅の談話室でパッチワークキルト制作指導を続けている。皆さんの上達はめざましく、作品を多くの方に見ていただきたいという思いが「キルト展」という形になった。地の利がよかったのにも関わらず、来場者は約100名にとどまり、被災地への思いが薄れつつあることを嫌でも実感した。



市民フォーラムの方々とコラボレーション（左）ワークショップ～ヨーロッパでつながろう～（右）

来場者の方々は明るく力強い作品に感動し、「被災地の現状を知ることができてよかった」「写真から皆さんの笑顔を見て安心した」「被災地には行けないが忘れてはいけないという思いを改めて感じた」等々、心温まるメッセージをいただいた。5歳の子どもは、「おぼちゃんたちは津波で家がなくなっ、暇になったから（仕事）がなくなったから作っているの？」とぼつりとつぶやいた。仮設の皆さんはパッチワークを始める前に同じことを口にしたそう。100人の方の想いは釜石市の皆様に届けられた。キルトはメッセージャーの役割を担っている。会場

提供者からは次回も企画して欲しいという申し出があった。次につながったことがなによりうれしい。

国際交流委員会
活動報告
マレー 寛子

国際交流委員会の活動として2012年度は、久しぶりの国際セミナーを企画・実施しました。2013年2月7日～9日にかけて韓国端山市にて、日本からの参加者11名を伴い、韓瑞大学の趙文基さんのお世話のもと国際現場セミナーを持つことができました。韓国地方都市における高齢者施設、障害者施設、総合福祉館、など様々な福祉の取り組みを、実際に見学し、また、現地の研究者や実践者の方々とふれあい、研究発表や意見交換をすることができました。

初代会長の一番ヶ瀬先生が大切にしてくられた学会活動の一つとして、近隣のアジア諸国との福祉文化の交流があります。その活動をささやかながらも少しずつ育んでいくことがいかに大切かを、このセミナーを通して感じる事が出来ました。韓国における様々な福祉の取り組みを見聞きし、そこでの人々とつながりを持ち、新たな視点や思いを持つことができたように思います。小さな一歩で



障がい者福祉施設ソリム福祉園

「専門性と市民性の融合の関わり」「公開型地域総合型学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」を掲げて取り組む。

平成25年度は「地方発福祉文化の創造」をめざして、各地の実践活動に学ぶ1つ目の柱「啓発学習事業」では、第1回5/25 13時～静岡県総合福祉会館「つなごるご近所の再構築の決め手は？」／第2回7/21 13時～静岡市清水区「寄つてつ亭」内「長寿者が輝くこれらのご近所をつくる」／第3回8/11 13時～静岡県総合福祉会館「ご近所の支え合いの取り組みを学ぶ―実践事例から検証―」／第4回11/10 13時～静岡県総合福祉会館「誰がご近所福祉を創るか、これが一番、ホッとする支え合い」(第12回静岡県福祉文化研究セミナーとして開催)／第5回1/19 9時30分～サンエルぬまづ「これで安心、ご近所の絆」(第6回ご近所福祉INぬまづ)として開催)

2つ目の柱「調査研究事業」では、テーマを「ホッとするご近所づくり」その意識と実践調査」として、市民に実施。3つ目の柱「実践地活動事業」では、県内各地の実践事例を共有し合い

「実践地活動事業」では、県内各地の実践事例を共有し合い



「公開型セミナー」では若者の提案に大人も納得

はあります。これを機会に少しずつ学会として活動を広げていくことができればと思います。

この国際現場セミナー開催中、お世話になった現地通訳のボランティアの方2名が、龍谷大学大学院の留学生で、帰国後、大阪で行われる関西ブロックの研究会に参加して下さったり会員の運営する施設を見学に来られたりと交流が継続されています。今年度は、国際交流委員会としてアジアの留学生とともに関西を軸とした福祉文化研究会を行っていきたくと考えています。



韓瑞老人療養園園長 韓 勝惠氏へ日本からの土産を手渡す石田副会長

研究委員会報告

馬場 清

福祉を文化的な視点からみる
ことが福祉文化である

東京大会での報告に向けて熱い議論を戦わせています

※2012年7月に発足した「福祉文化よもやませミナール」ですが、メンバーも14人に増え、これまでに計5回のゼミを持ちました(第1回・2回については前号までに報告済み)。

第3回 12月16日(日)
報告①前嶋元「スクールソーシャルワーカーと福祉文化」
報告②五十嵐真一「福祉文化現場

●日本福祉文化学会 20年の歩み②

1993年から1995年までの
主な活動をプレイバック

1993年

【大会】
第4回福祉文化シンポジウム
於：日本女子大学
「地域に染く新しい福祉文化の試み」
・記念講演「生協が取り組み地域福祉の目指すもの」

竹本成徳（日本生活協同組合連合会会長）
パネルディスカッション「地域に根づく福祉文化の実践」

竹本成徳（日本生活協同組合連合会会長）、
一番ヶ瀬康子（日本女子大学教授）、
園田碩哉（日本レクリエーション協会人材開発
本部長）、河周子（杉並老後をよくする会
副代表）

【現場セミナー】
第5回福祉文化現場セミナー
於：特別養護老人ホーム楽寿園（静岡県）
第6回福祉文化現場セミナー
於：特別養護老人ホーム喜楽苑（兵庫県）
人ホームいくの喜楽苑（兵庫県）

【施設と地域社会の連携】
第5回福祉文化シンポジウム
於：日本女子大学

【動き出した地域、変わりだした地域】
・基調講演「動き出した地域の福祉文化」
小野寺一雄（特別養護老人ホーム松寿園施設長）
パネルディスカッション「市民のための福祉文化をどう創るか」

吉田弘子（東北高齢化社会を考える会会長）、
雨宮洋子（宇佐ナーシングホーム泰生園施設長）、
池田昌弘（栃木県社会福祉協議会地域福祉課、萩原清子（長野大学）
ビデオセッション 若栗文則（ライフパ

【大会】
第5回福祉文化シンポジウム
於：日本女子大学

【動き出した地域、変わりだした地域】
・基調講演「動き出した地域の福祉文化」
小野寺一雄（特別養護老人ホーム松寿園施設長）
パネルディスカッション「市民のための福祉文化をどう創るか」

吉田弘子（東北高齢化社会を考える会会長）、
雨宮洋子（宇佐ナーシングホーム泰生園施設長）、
池田昌弘（栃木県社会福祉協議会地域福祉課、萩原清子（長野大学）
ビデオセッション 若栗文則（ライフパ

1994年

【大会】
第5回福祉文化シンポジウム
於：日本女子大学

【動き出した地域、変わりだした地域】
・基調講演「動き出した地域の福祉文化」
小野寺一雄（特別養護老人ホーム松寿園施設長）
パネルディスカッション「市民のための福祉文化をどう創るか」

吉田弘子（東北高齢化社会を考える会会長）、
雨宮洋子（宇佐ナーシングホーム泰生園施設長）、
池田昌弘（栃木県社会福祉協議会地域福祉課、萩原清子（長野大学）
ビデオセッション 若栗文則（ライフパ

【現場セミナー】
第7回福祉文化現場セミナー
於：米山きこ園（新潟県）

【現場セミナー】
第8回福祉文化現場セミナー
於：ショートステイセンター「花の生活館」
（神奈川県）

【大会】
第6回福祉文化総大会
於：横浜ラポール

・記念講演「障害者の福祉文化―出発と創造」
講師：花田春兆（日本障害者協議会副代表）
特別講演「誰にも豊かな芸術文化を」
講演：宮城まり子（ねむの木学園代表）
シンポジウム

・被災地における福祉文化
・高齢者・障害者の旅とアクセス
・みんなのスポーツレクリエーション
・まちでいきいきと生きるために

最新研究発表
①遊びと福祉文化／②スポーツと福祉文化
／③生活と福祉文化／④芸術と福祉文化
分科会

①自分で装う、自分らしく装う／②高齢者の豊かな食事と単料理／③自立生活を助ける住宅改造／④公演鬼伝説出演・スターダスト・舎・イン

【現場セミナー】
第9回福祉文化現場セミナー於：沖繩
「世替わりを生きて―アメリカ世からヤマト世までのウチナーの福祉文化を考える―」
第10回福祉文化現場セミナー
於：たいようの杜 遊童館・キャディハウス
（岐阜県・愛知県）
「尾張・飛騨子どもの福祉文化」
20年の歩み（1）は福祉文化通信68号に掲載されています。

1995年

【大会】
第6回福祉文化総大会
於：横浜ラポール

・記念講演「障害者の福祉文化―出発と創造」
講師：花田春兆（日本障害者協議会副代表）
特別講演「誰にも豊かな芸術文化を」
講演：宮城まり子（ねむの木学園代表）
シンポジウム

・被災地における福祉文化
・高齢者・障害者の旅とアクセス
・みんなのスポーツレクリエーション
・まちでいきいきと生きるために

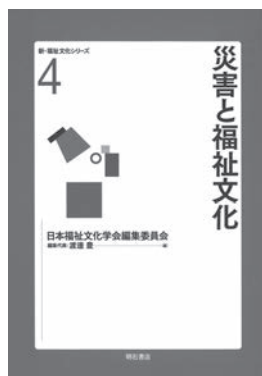
最新研究発表
①遊びと福祉文化／②スポーツと福祉文化
／③生活と福祉文化／④芸術と福祉文化
分科会

①自分で装う、自分らしく装う／②高齢者の豊かな食事と単料理／③自立生活を助ける住宅改造／④公演鬼伝説出演・スターダスト・舎・イン

【現場セミナー】
第9回福祉文化現場セミナー於：沖繩
「世替わりを生きて―アメリカ世からヤマト世までのウチナーの福祉文化を考える―」
第10回福祉文化現場セミナー
於：たいようの杜 遊童館・キャディハウス
（岐阜県・愛知県）
「尾張・飛騨子どもの福祉文化」
20年の歩み（1）は福祉文化通信68号に掲載されています。

新・福祉文化シリーズ第四巻

「災害と福祉文化」(明石書店)



編集代表 渡辺 豊

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われているが、むしろ今は災害が日常化してきている状況である。私が住む新潟県では、2004年7月13日の新潟県豪雨災害以来、新潟県中越地震(2004年10月13日)、豪雪(2004年~2005年、2005年~2006年)、新潟県中越沖地震(2007年7月16日)等度重なる災害に見舞われた。

これら災害のうち新潟県豪雨災害、新潟県中越地震において、私は新潟県社会福祉協議会職員として、被災地で地元の社会福祉協議会、ボランティア、NPO、青年会議所等とともに災害ボランティアセンターを設置・運営し、被災地の復旧・復興支援、被災者の生活支援を行ってきた。(中略)これらの経験を通して「災害」という非日常の緊急事態においては、日常茶飯事のさまざまな有様が浮き彫りになることを改めて感じた。自分、家族、近隣、地域、組織(自治体、

機関、団体)、それら各々の考え方(姿勢)、行動の取り方が問われる。公助、共助、自助のあり方や関係性が問われると考えるに至った。

例えば、新潟県中越地震において、山古志村民(現在は長岡市民)の生活支援を避難所や仮設住宅で行った際、山間地に暮らす村民の地縁、血縁で結ばれた強い絆、団結力の固さを実感した。これももし大都市東京の場合であったらどうだろうか。(中略)福祉文化活動に取り組む者が持つべき基本的な姿勢は、被災者により添いながら、被災者の生きがいづくりや自立を支援することである。災害後の福祉文化活動とともに、災害の発生に備えた日頃からの福祉文化活動の実践も重要である。医師、消防隊員、自衛隊等に加え、中長期的に被災地のコミュニティづくりを促進する、地域振興を図る福祉文化活動の存在が必要不可欠である。(中略)被災経験の数々を教訓化した、まさに「禍いを転じて福と為す」多種多様な福祉文化実践を参考とし、今後、読者諸氏の地域で災害発生を想定した備えとして本書「災害と福祉文化」をご活用いただければ幸いです。

※新・福祉文化シリーズ第3巻「新しい地域づくりと福祉文化」については、通信第65号にて紹介しています。

福祉文化の交差点①

学会員から3回に分けて福祉文化のルーツを考える視点で、ご寄稿いただくコーナーです。

異文化の森 アイヌ文化を考える

斎藤遙山(群馬県)

百五十年ほどまえ、今の北海道(面積でいうと東北6県に新潟県を足したくらい)に数万人の人々が暮らしていた。松前藩の範囲に2万人くらいの和入、その他の広い面積に2~3万人のアイヌ(人間という意味)の人々で、北海道は常に「アイヌ・モ・シリ(静かなる・人間の大地)」であった。

2010年に渡辺京二氏は、「ロシア・アイヌ・日本の三國志」を『黒船前夜』として上梓し、北方の夜明け前を、「蝦夷地」から樺太、千島列島にわたる歴史物語として教えてくれた。考えてみれば、アイヌは黒龍江までいって成吉思汗の軍とも戦っている、海洋民族でもあるのだ。

この著と萱野茂・清水武雄『アイヌ・暮らしの民具』、それに『風土記日本北海道篇』(1958年発刊だが、十分に新しい)を携えて、アイヌの故地を廻ってきた。オキナワとアイヌからの視座を持たなくて「日本」を考えることは出来ないだろうし、なにも東京ばかりが中心ではない。

中世に昆布やニシンが京都に入っていたように、狩猟民族である

アイヌは、一方では交易で鹽や鉄器、什器等を得ていて、近世には大陸の官服が「蝦夷錦」としてアイヌを経由して、江戸の大名たちに珍重されていたという。

そして、彼らは、大地の恵みである獣(鹿・熊・魚(鮭))と植物・海産物を、再生を妨げない範囲で享受し、「天真爛漫な稚児の様に、美しい大自然に抱擁されてのんびりと楽しく」(知里幸恵) 藝術ともいえる生活を愉しんでいた。

渡辺はこれを、「国家権力に従属しない自立的な生の在り方、あの世との世の循環のなかに正しく位置づけられた心の落ち着き、自然の恵みに感謝するにとどまらず、災害すら自然の悪意ではなくて、自分を徳ある人として完成せしめる善意とみなす世界観」このゆたかな精神文化こそアイヌ社会の重要な一面」と描いている。

アイヌの人たちは、政治を選択しなかった、国家を作ろうとしなかった、だから近代に滅ぼされそうになったのだとしても、それ故に、わたくしたちが学ぶところが多いはずだ。

自然を最小限に活用し、自然を神として享受し、自然からの繊細な工芸を創出してきた、生活全体を文化として暮らしてきたといってもよい。それは、江戸時代の農民倫理にも共通するし、宮澤賢治の全的生活観(科学・宗教・労働・藝術の四役共生)とも触合って、連なる。

新規加入者紹介

●2013年6月15日までにご入会された方のお名前と所属ブロックとをお知らせ致します。(敬称略)

個人会員：渡邊恵(北陸) 矢野実千代、山田千恵子、善本真弓(関東) 大木えりか(中部東海) 原田征子、藤本真由、正井佐知(関西)
団体会員：ライフビジョンネット

日本福祉文化学会

会費納入のお願い

いつも学会活動にご協力を賜り改めて御礼申し上げます。

学会活動は皆様の会費で賄われています。

学会活動が、みなさんに注目していただけるよう、理事会を中心に具体的な新しい活動を進めております。(ホームページの充実やブロック活動の充実、震災支援活動の継続など)また、9月末の全国大会(東京池袋立教大学)でのプログラムの充実に取り組み皆様にご満足いただけるよう準備中です。

今年度または過年度の会費納入がまだの方がおられましたら至急納入いただけますようお願い申し上げます。

なお、年に2回にわけて会費納入も可能です。事務局までお問い合わせください。

日本福祉文化学会事務局 磯部幸子